

医学部における2019（平成31,令和元）年度実績 教員個人評価の 集計・分析並びに自己点検評価報告

1. 個人評価の実施経過

令和2年

- 3月 3日 令和元年度第2回医学部評価委員会
2019年度医学部個人評価の様式について審議・決定。
- 3月 4日 医学部全教員を対象に、2019年度実績個人評価の実施説明文（資料1）を送付し、2020年度個人目標申告書（資料6）、2019年度活動実績報告書（資料4）及び自己点検・評価書（資料5）の作成・提出を依頼。
- 4月10日 提出締め切り
- 8月12日 各講座グループ長へ、2019年度実績教員グループ評価の確認依頼。
- 8月31日 グループ評価提出締め切り

令和3年

- 2月16日 2019年度実績教員個人評価結果を、各講座等長を経由して教員個人に通知。

2. 実施の概要

- (1) 実施対象：医学部全教員のうち、2019年度に在籍していた医学科基礎系38人、臨床系161人、看護学科24人、地域医療科学教育研究センター5人、再生医学研究センター2人、中央診療部門35人の計265人。

表1. 職域、職種別の対象者人数と個人評価調査回答数
(地域医療科学教育研究センター、再生医学研究センターの教員は医学科基礎系に、
中央診療部門の教員は臨床系の職域区分に含める)

職域・職種	対象者数	調査回答数	回答率%
医学科基礎系 教授	15	15	100
准教授・講師	17	17	100
助教・助手	13	13	100
臨床系 教授	22	22	100
准教授・講師	60	60	100
助教	114	114	100
看護学科 教授	8	8	100
准教授・講師	9	9	100
助教	7	7	100

- (2) 実施組織：医学部評価委員会（医学部長1，副医学部長3，病院長1，附属図書館副館長1，医学科教授4，看護学科教授1，事務部長1の計12名）

(3) 実施内容と方法

1) 医学部の実施基準・指針

本学の「職員の個人評価に関する実施基準及び指針」に基づき、「佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準」（資料2）並びに「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針（教員用）」（資料3）を定め、これに準じて実施した。

なお、医学部の実施基準では、本学の実施基準に以下の点を加えていることが特徴といえる。

- ① 診療の評価領域。

② 各教員の「活動実績報告書」及び「自己点検・評価書」の提出、並びに「個人評価結果」の通知は講座等の長を経由して行う。

③ 講座等の長は職員の活動実績を各講座等においてとりまとめ、評価し、講座等の活動改善の資料とする。

2) 評価項目と評価点

評価領域ごとの評価項目及び評価点は、「活動実績報告書」(資料4)に示す内容で実施した。評価点は加算方式で、評価領域ごとの上限(満点)は設けず、評価領域間での満点の統一も行わない方式になっている。

3) 各教員による活動実績報告書の作成と自己点検評価

各教員は、各自の活動を「活動実績報告書」に取りまとめ、それと前年度に設定した2019年度の活動目標と重み配分を基に自己点検評価を行った結果を「自己点検・評価書」(資料5)に記述して提出した。

4) 2020年度の活動目標と重み配分の設定

上記の2019年度実績の点検評価とは別に、各教員は2020年度の活動目標と重み配分を「2020年度個人目標申告書」(資料6)に記入して提出した。これに関しては2019年度に在籍していなかった教員にも提出を求めた。

5) 活動実績の集計と分析

医学部の職域が多様であり、また、その職種によっても求められる活動が異なることから、教員を①医学科基礎系、②臨床系、③看護学科の3つの職域に区分し、更に④教授、⑤准教授・講師、⑥助教・助手の職種ごとに分けて、活動実績の集計と分析・評価を行った。

6) 「個人評価結果」の通知内容

当該教員の評価領域ごとの評価点を、該当する職域・職種別グループ教員の評価点とともにグラフで表し、当該教員の活動状況の位置付けを示す「個人評価結果表」と、当該教員の活動目標達成に関わる自己評価に対する評価委員会コメントを個人評価結果として通知する(資料7)。

3. 各評価領域における評価項目と活動実績の集計・分析

(1) 教育の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 学部教育の実績：①講義・実習・PBL、②臨床実習、③選択コース・セミナーの区分で担当時間数を点数化し、教養教育科目や学生による授業評価の高いものには加算点を追加。

[2] 教育改善の取り組み：取り組みの実績を自由記載し、取り組みの有無により評点化。

[3] 教育研修(FD)への参加：参加の有無、時間を評点化。

[4] 大学院教育の実績：①大学院授業の担当時間数、②研究指導した学生数、学位取得者の指導数、学位論文審査件数をそれぞれ評点化。

[5] 学内におけるその他の教育活動：全学または全学部的な講演やオスキー評価者などの時間数を評点化。

[6] 学生への生活指導等：チューター、クラブ顧問、オフィスアワー等による指導実績の有無を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した教育領域の評点の職域・職種別平均値を表2に示す。

表2. 教育の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		教育領域 平均 評価点数	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点								
			[1] ① 講義等	[1] ② 臨実習	[1] ③ 選択コ	[2] 改善	[3] FD	[4] ① 院授業	[4] ② 院指導	[5] 他教育	[6] 学支援
基礎系 医学科	教授	118.5	51.8	3.5	17.4	1.9	2.6	6.6	31.7	2.4	0.7
	准教授・講師	66.0	40.5	0.4	5.2	2.0	2.7	4.0	9.6	1.0	0.7
	助教・助手	54.0	29.7	5.6	5.0	1.8	2.2	1.4	7.7	0.0	0.6
臨床系	教授	67.3	10.2	31.4	4.9	1.5	1.6	0.7	14.1	2.3	0.5
	准教授・講師	53.2	10.1	27.9	2.4	1.3	1.1	0.6	6.6	2.8	0.3
	助教	36.6	6.1	22.1	1.2	1.1	0.6	0.0	2.5	2.9	0.1
学科 看護	教授	323.7	169.4	25.8	9.7	2.0	3.1	70.1	42.9	0.1	0.7
	准教授・講師	329.6	235.5	42.1	4.9	2.0	3.6	23.2	17.6	0.1	0.6
	助教	291.1	225.1	40.3	3.6	2.0	3.3	11.3	5.0	0.0	0.6

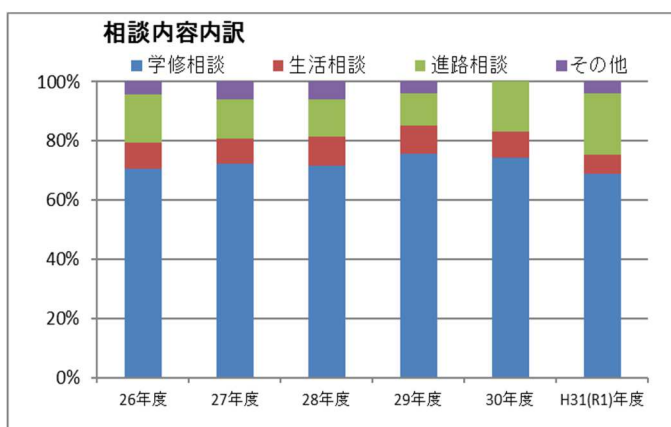
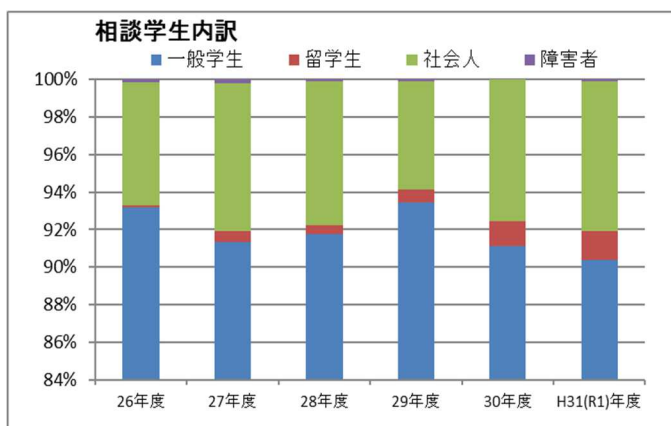
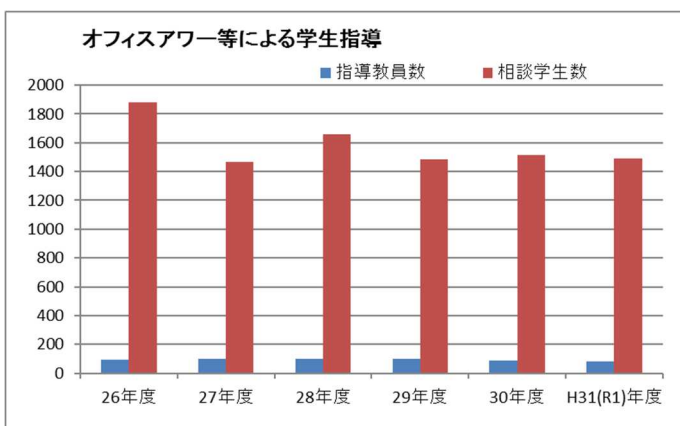
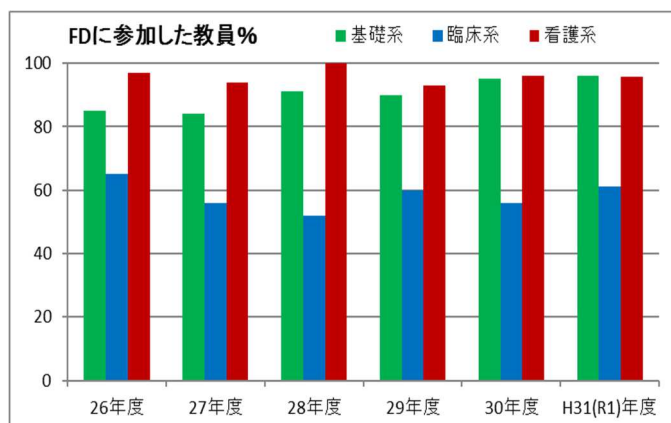
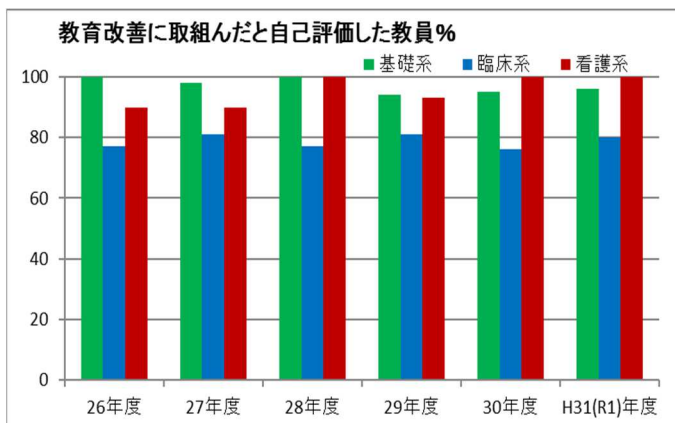
評価項目実績の概要：

- [1] 学部教育の実績評点は、凡そ30時間の講義担当時間数が10点に相当するもので、看護学科では、講義の担当が多く高点数となっている。
- [2] 教育改善の取り組みについては、医学科基礎系45人中43人96%(30年度95%, 29年度96%, 28年度100%, 27年度98%, 26年度100%), 臨床系196人中156人80%(30年度76%, 29年度80%, 28年度77%, 27年度81%, 26年度76%), 看護学科24人中24人100%(30年度100%, 29年度92%, 28年度100%, 27年度90%, 26年度90%)が、何らかの取り組みを行っているとして自己評価しており(下図参照)、その内容は、授業配布資料の改善・工夫、PBLチューター指導の工夫、病棟実習の工夫などが多い(別添教育改善集計参照)。
- [3] FDへの参加では、医学科基礎系45人中43人96%(30年度95%, 29年度90%, 28年度91%, 27年度84%, 26年度85%), 臨床系196人中120人61%(30年度56%, 29年度60%, 28年度52%, 27年度56%, 26年度65%), 看護学科24人中23人96%(30年度96%, 29年度92%, 28年度100%, 27年度94%, 26年度97%)の者が1回以上参加しており(下図参照)、その主なものは、医学・看護学教育ワークショップ、ティーチングポートフォリオミニワークショップ、入試面接セミナーなどである。
- [4] 大学院教育の評点は、実験指導などの貢献も評点化しているので、特に基礎医学系において、助教が大学院教育にも参画していることが、大学院指導評価点として表れている。
- [5] 学内におけるその他の教育活動は、全体で122件(30年度103件, 29年度100件, 28年度102件, 27年度100件, 26年度80件)で、学内講演会の講師やオスキー評価者としての貢献などがある。
- [6] 学生への生活指導等では、学年別及び特別チューター159人(全教員の60%), オフィスアワー等による指導84人(全教員の32%), クラブ顧問34人の実績が提出されている。
 オフィスアワー等により指導を受けた学生の延べ人数は1,490人(2019年度学生収容定員：学部906人, 大学院168人, 計1,074人の1.39倍の人数)で、その種別は、一般学生89.5%, 留学生1.5%, 社会人7.9%, 障害者0.1%となっている(下図参照)。
 相談の内容別では、学修相談64.1%, 生活相談6.2%, 進路相談19.3%, その他3.6%で、相談方法で見ると、オフィスアワー(恒常的に時間を設定しているもの)による面談は全体の22.3%であるが、時間を設定せずに随時対応した面談が60.1%で大半を占め、メールによる相

談が 17.2%あった。

3) 教育領域全体の状況

- 授業に関しては、職域・職種に特性に相応の教育活動が行われているが、看護学科では全体的に教育負担が高い。
- 全体で 84.2%の教員が何らかの教育改善の取り組みを行っており、更なる取組みが望まれる。
- FDへの参加は、全体で 265 人の教員のうち 186 人、70.2% (30 年度 67.1%, 29 年度 69%, 28 年度 64.3%, 27 年度 65.0%, 26 年度 72.1%) で、参加率は昨年度と比べるとやや上昇している。



(2) 研究の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

- [1] 著書，論文等の実績：著書，論文等の発表数とインパクトファクターを点数化。
- [2] 学会発表等の実績：学会発表等の数を学会規模，一般発表，招待発表とに分けて評点化。
- [3] 学会への貢献：学会等の主催，学会役員等の実績を評点化。
- [4] 学術等に関する受賞：受賞の有無を評点化。
- [5] 科学研究費等補助金の申請・獲得：代表者としての申請実績と獲得実績を評点化。
- [6] 特許の取得状況：取得の有無を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した研究領域の評点の職域・職種別平均値を表3に示す。

表3. 研究の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		研究領域	各評価項目の平均評点					
		平均 評価点数	[1] 著書論文	[2] 学会発表	[3] 学会貢献	[4] 受賞	[5] 科研費	[6] 特許
基礎 医学科	教授	61.7	31.9	14.0	8.7	0.7	6.1	0.3
	准教授・講師	33.8	15.3	8.3	2.9	0.0	7.0	0.3
	助教・助手	15.2	4.4	4.5	1.1	0.8	4.4	0.0
臨床 系	教授	122.9	40.2	46.5	27.0	0.0	9.0	0.2
	准教授・講師	49.2	17.4	19.5	5.8	2.0	4.5	0.1
	助教	19.8	6.2	10.1	0.9	0.8	1.8	0.0
学看護 科	教授	22.6	2.7	7.3	7.0	0.0	5.6	0.0
	准教授・講師	12.2	2.7	3.7	1.4	0.1	4.3	0.0
	助教	9.2	2.2	1.9	0.9	0.0	4.1	0.0

評価項目実績の概要：

- [1] 2019年の著書総数は和文98，英文11，合計109（30年99，29年141，28年135，27年149，26年241）で，論文総数は，和文221，英文437，合計658（30年795，29年780，28年592，27年625，26年880）であった（下図参照）。
- [2] 国際及び全国規模の学会発表総件数は，1398（30年1331，29年1352，28年1451，27年1192，26年1207）で（下図参照），その内訳は，国際的学会214（30年209，29年239，28年238，27年166，26年191），全国規模の学会1184（30年1128，29年1113，28年1213，27年1026，26年1016）で，この他に，地方会規模の学会発表が495（30年450，29年471，28年557，27年482，26年391），その他の集会等での発表が582（30年588，29年530，28年613，27年525，26年421）件であった。
- [3] 学会への貢献では，全国規模の学会・研究会の開催が14（30年24，29年16，28年24，27年19，26年14）件，地方会規模の学会・研究会等の主催が67（30年74，29年73，28年65，27年67，26年75）件あった。
- [4] 学術等における受賞に関しては，15（30年11，29年15，28年13，27年12，26年12）件の学会賞や優秀研究賞の受賞があった。
- [5] 科学研究費補助金の申請が205（30年度239，29年度239，28年度237，27年度224，26年度213）件あり，採択件数は，継続66（30年度69，29年度71，28年度55，27年度51，26年度53）件と合わせて94（30年度103，29年度109，28年度90，27年度86，26年度86）件あり，166,660,000円（前年度比－28,164,000円，30年度194,824,000円，29年度209,300,000円）

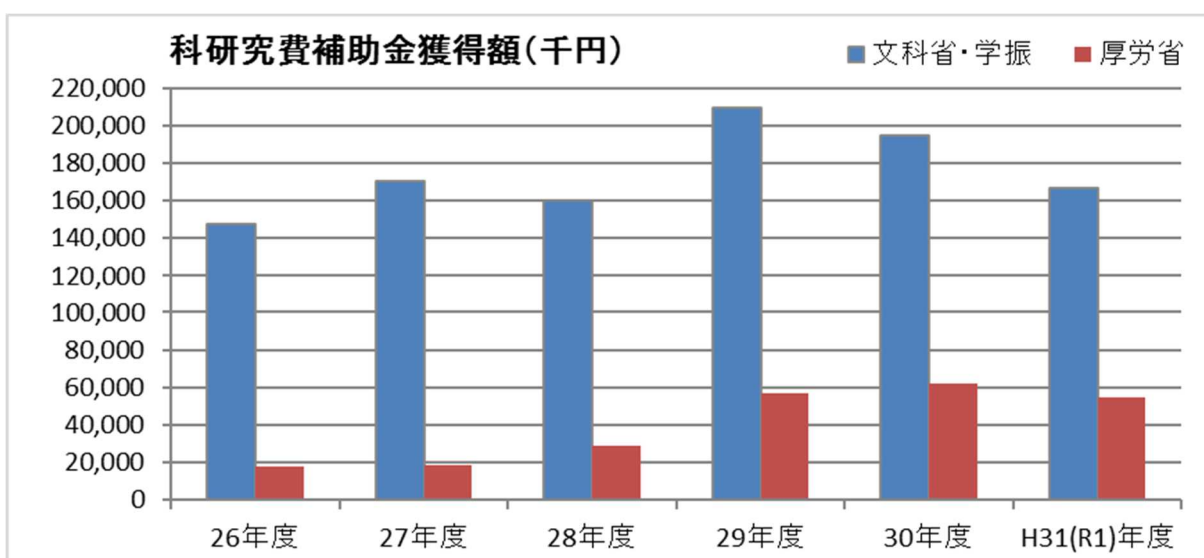
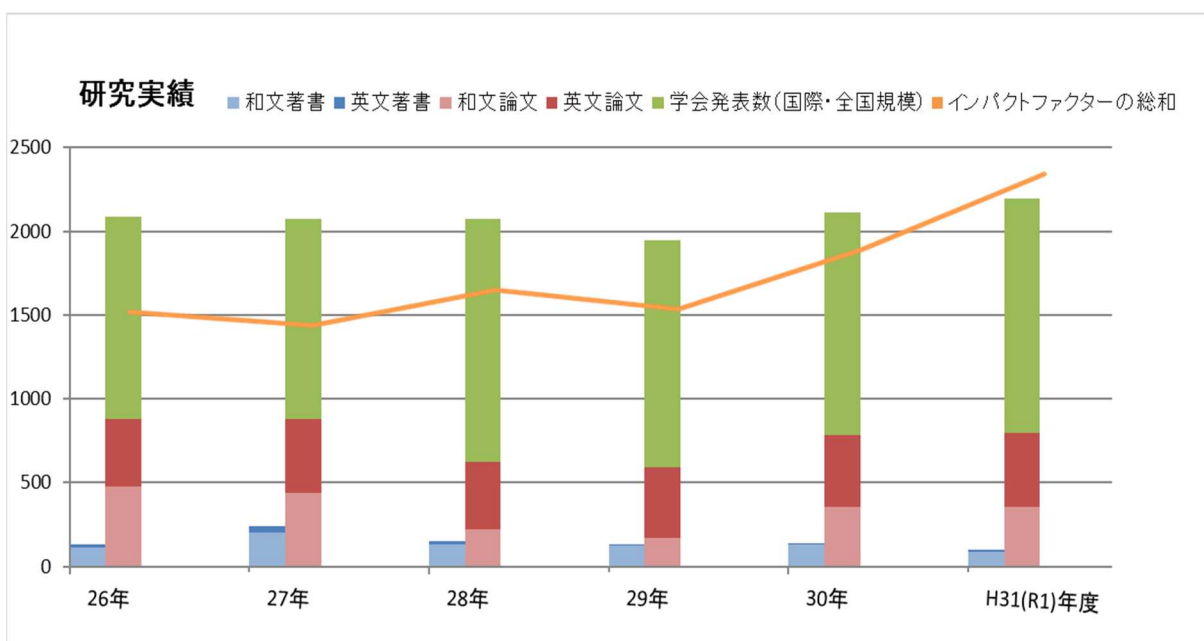
円, 28年度 159,965,000 円, 27年度 170,598,238 円, 26年度 147,774,397 円) の助成を受けた (下図参照)。

その他に, 厚生労働省科学研究費補助金が代表 1 件, 分担 16 件 (30年度代表 2 件, 分担 13 件, 29年度代表 2・分担 12 件, 28年度代表 1・分担 11 件, 27年度代表 0・分担 13 件, 26年度代表 0・分担 13 件) で, 計 54,588,000 円 (前年度比-7,096,000 円, 30年度代表 61,684,000 円, 29年度 56,468,000 円, 28年度 28,537,000 円, 27年度 18,300,000 円, 26年度 17,820,000 円) の助成を受けた (下図参照)。

[6] 特許に関しては, 5 (30年度 9, 29年度 9, 28年度 10, 27年度 9, 26年度 15) 件の申請・取得があった。

3) 研究領域全体の状況

- 著書・論文数の研究業績を前年度と比較すると、著書数は10件の増、論文数は137件の減で、両者の総数は前年度より127件の減になっている。
- インパクトファクターの総数は前年度より増加している。
- 学会発表件数は、前年度より国際的学会が5件の増、全国規模の学会が56件の増で、両者の総計で61件の増になっている。また、地方会規模の発表は45件の増になっている。
- 科学研究費補助金の申請件数は前年度より34件の減で、採択件数が9件の減になっており、補助金については28,164,000円の減であった。厚生労働科学研究費補助金は前年度より件数は2件の増になっており、金額は7,096,000円の減になっている。



(3) 国際・社会貢献の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

- [1] 国際交流に関する実績：外国人研究者・留学生等の受入件数、公務による国際交流事業等の実績を点数化。(学会等の海外渡航は評点には加えない)
- [2] 海外共同研究：実績件数を評点化。
- [3] 海外技術協力・支援：実績件数を評点化。
- [4] 国内での共同研究・受託研究：実績件数を評点化。
- [5] 学外における教育活動：公開講座、出前授業、講演、講習会、非常勤講師等の件数を評点化。
- [6] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員など：実績件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した国際・社会貢献領域の評点の職域・職種別平均値を表4に示す。

表4. 国際・社会貢献の領域，評価項目の平均評点

職域・職種 区分		国際・社会 貢献領域	各評価項目の平均評点					
		平均 評価点数	[1] 国際交流	[2] 海外共研	[3] 海外技協	[4] 国内共研	[5] 学外教育	[6] 自治体
基礎系 医学科	教授	29.0	3.5	2.2	0.3	12.6	7.5	2.9
	准教授・講師	14.6	2.1	2.6	0.3	3.5	4.8	1.3
	助教・助手	8.1	0.0	1.2	0.0	1.0	5.9	0.0
臨床系	教授	47.6	0.0	0.5	0.5	7.2	28.4	11.0
	准教授・講師	17.4	0.2	0.4	0.6	3.4	10.7	2.2
	助教	6.9	0.1	0.1	0.0	1.6	4.7	0.4
学科 看護	教授	38.1	3.3	0.0	1.3	3.7	24.1	5.8
	准教授・講師	24.4	0.7	0.0	0.0	0.2	20.0	3.6
	助教	6.6	0.0	0.0	0.0	0.4	5.6	0.6

評価項目実績の概要：

- [1] 国際交流のうち、外国人研究者の受入は長期・短期を合わせて9(30年度9, 29年度9, 28年度13, 27年度12, 26年度26)人、国費及び私費留学生の受入が2(30年度5, 29年度7, 28年度7, 27年度5, 26年度7)人、交換学生等が18(30年度21, 29年度14, 28年度19, 27年度14, 26年度21)人であった(下図参照)。
- [2] 海外共同研究は全体で48(30年度64, 29年度63, 28年度82, 27年度78, 26年度72,)件あり、相手は北米26(30年度37, 29年度40, 28年度49, 27年度44, 26年度41,)、欧州11(30年度15, 29年度12, 28年度22, 27年度21, 26年度16)、アジア8(30年度11, 29年度11, 28年度11, 27年度13, 26年度15)の大学及び研究所であった(下図参照)。
- [3] 海外技術協力・支援の実績は、アジアなどの国に対する医療技術支援など14(30年度14, 29年度11, 28年度10, 27年度10, 26年度3)件あった。
- [4] 国内での共同研究は全体で425(30年度426, 29年度384, 28年度413, 27年度379, 26年度286)件あり、内訳は大学347(30年度344, 29年度298, 28年度319, 27年度289, 26年度209)、民間企業53(30年度62, 29年度69, 28年度74, 27年度76, 26年度63)、政府機関16(30年度11, 29年度11, 28年度10, 27年度8, 26年度9)、自治体9(30年度9, 29年度6, 28年度10, 27年度6, 26年度5)で、共同研究費の受け入れを伴うものが77(30年度88, 29年度81, 28年度83, 27年度65, 26年度54)件、共同研究員の受け入れ人数が50(30年度33, 29年度32, 28年度19, 27年度16, 26年度10)件であった(下図参照)。
受託研究は全体で161(30年度123, 29年度118, 28年度121, 27年度117, 26年度111)

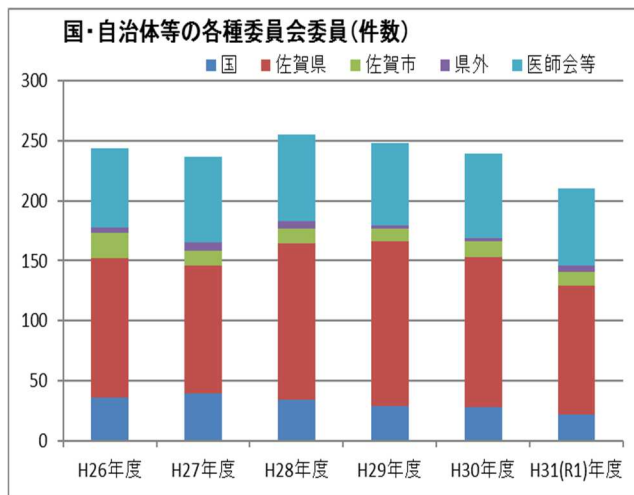
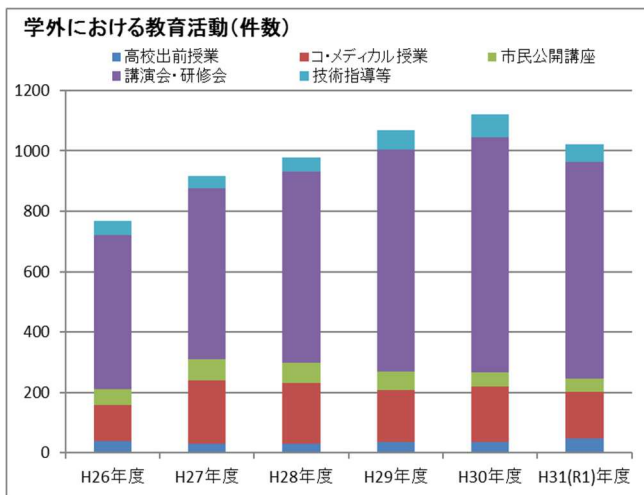
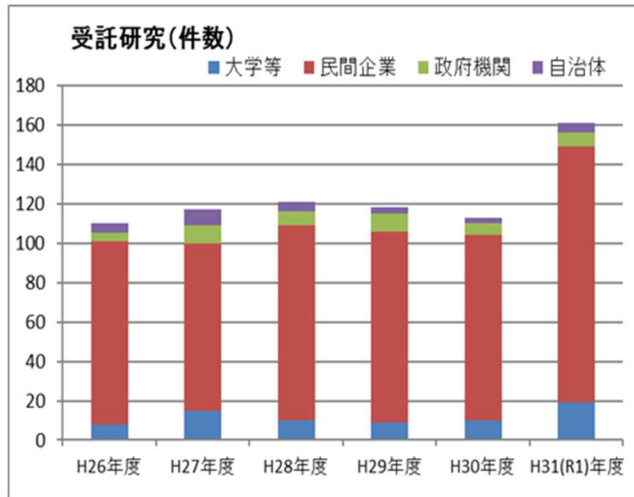
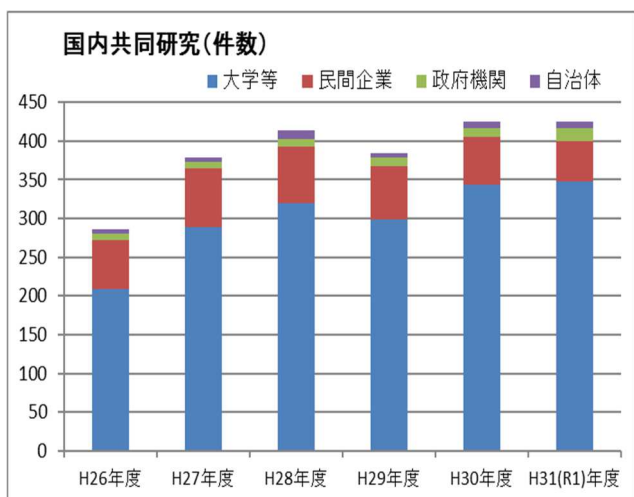
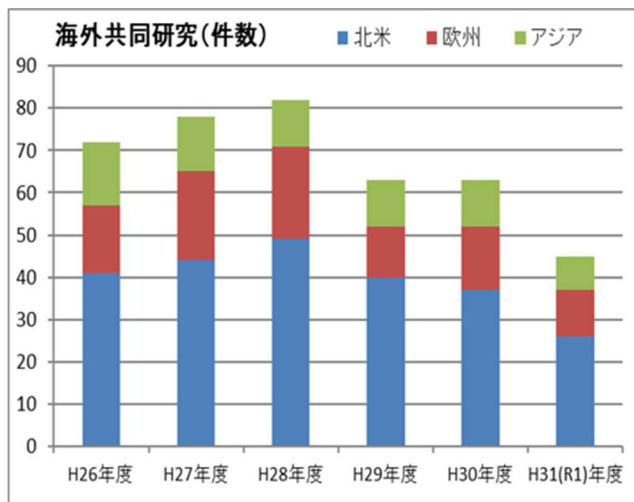
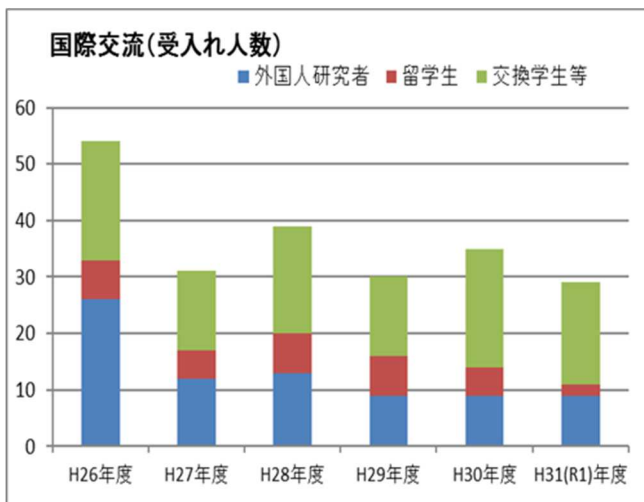
件あり、内訳は民間企業 130 (30 年度 104, 29 年度 97, 28 年度 99, 27 年度 85, 26 年度 93), 政府機関 7 (30 年度 6, 29 年度 9, 28 年度 7, 27 年度 9, 26 年度 6), 自治体 5 (30 年度 5, 29 年度 3, 28 年度 5, 27 年度 8, 26 年度 4), 大学等 19 (30 年度 10, 29 年度 9, 28 年度 10, 27 年度 15, 26 年度 8) で、受託研究費の受け入れを伴うものが 115 (30 年度 98, 29 年度 112, 28 年度 106, 27 年度 101, 26 年度 77) 件であった (下図参照)。

[5] 学外における教育活動は、市民公開講座等 46 (30 年度 48, 29 年度 62, 28 年度 65, 27 年度 68, 26 年度 52) 件、高校での出前授業 47 (30 年度 35, 29 年度 37, 28 年度 31, 27 年度 30, 26 年度 38) 件、講演会・研修会等 716 (30 年度 776, 29 年度 736, 28 年度 634, 27 年度 568, 26 年度 510) 件、コ・メディカル等の教育支援非常勤講師 154 (30 年度 182, 29 年度 170, 28 年度 201, 27 年度 211, 26 年度 120) 件、技術指導等 60 (30 年度 76, 29 年度 64, 28 年度 47, 27 年度 41, 26 年度 47) 件であった (下図参照)。

[6] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員などの貢献は、国 22 (30 年度 28, 29 年度 29, 28 年度 34, 27 年度 39, 26 年度 36) 件、佐賀県 107 (30 年度 126, 29 年度 137, 28 年度 130, 27 年度 107, 26 年度 116) 件、佐賀市 12 (30 年度 13, 29 年度 11, 28 年度 13, 27 年度 12, 26 年度 21) 件、県外 5 (30 年度 3, 29 年度 2, 28 年度 6, 27 年度 7, 26 年度 5) 件、医師会等その他 64 (30 年度 70, 29 年度 69, 28 年度 72, 27 年度 72, 26 年度 66) 件であった (下図参照)。

3) 国際・社会貢献領域全体の状況

- 学部教育に留学生を受け入れ難い分、国際交流の幅が狭い。その分を補う意味でも、海外共同研究等の活動を活性化させる必要がある。
- 国内では、共同研究・受託研究による社会貢献，市民並びに専門家対象の講演やコ・メディカル等の教育支援など教育面での社会貢献，及び国・地方自治体の各種委員としての貢献が相当数あり，活発な社会貢献を行っている。



(4) 組織運営の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

[1] 佐賀大学全学委員会，専門部会等における貢献：委員長，委員としての件数を点数化。

[2] 学部，学科，附属病院の委員会，専門部会等における貢献

：委員長，委員としての件数を点数化。

[3] 教務関係の役職（フェーズ主任，教科主任 等），組織・運営の役職：実績件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した組織運営領域の評点の職域・職種別平均値を表5に示す。

表5. 組織運営の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		組織運営領域	各評価項目の平均評点		
		平均評価点数	[1] 全学委員等	[2] 学部等委員	[3] 教務関係
基礎系 医学科	教授	31.6	5.6	9.1	16.9
	准教授・講師	6.9	2.4	1.8	2.8
	助教・助手	0.5	0.0	0.5	0.0
臨床系	教授	34.9	1.5	20.5	13.0
	准教授・講師	5.1	0.2	3.9	1.1
	助教	1.4	0.2	1.2	0.0
看護 学科	教授	68.8	3.5	25.9	39.4
	准教授・講師	23.6	1.3	8.2	14.0
	助教	2.9	0.0	2.9	0.0

3) 組織運営領域全体の状況

○ 組織運営の領域では，職務上主に教授が各種委員を担当するため，評価点は教授に偏っている。医学科基礎系及び臨床系では相応の分担になっているようだが，看護学科ではかなり負担が高い。教員数の関係もあるが，学部内委員会の委員構成の見直しなど，改善策の検討は今後の課題である。

(5) 診療の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 附属病院内 診療活動：総診療実働時間数を点数化。

[2] 病院運営の貢献：チーフレジデント、リスクマネージャー、横断的診療班等としての実働時間及び高度先進医療の貢献件数を評点化。

[3] 専門医、指導医等の資格取得状況：取得している資格、新たに取得または更新した資格の件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した診療領域の評価点の職域・職種別平均値を表6に示す。

表6. 診療の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		診療領域	各評価項目の平均評点		
		平均 評価点数	[1] 院内診療活動	[2] 病院運営	[3] 専門医等資格
基 礎 系 医 学 科	教授	10.1	7.8	0.0	2.3
	准教授・講師	6.6	4.0	0.0	2.6
	助教・助手	14.1	12.3	0.0	1.8
臨 床 系	教授	62.4	46.3	2.3	13.8
	准教授・講師	85.3	67.7	6.0	11.6
	助教	93.4	82.1	4.0	7.3
学 科 看 護	教授	1.3	0.1	0.0	1.3
	准教授・講師	0.2	0.0	0.0	0.2
	助教	0.0	0.0	0.0	0.0

3) 診療領域全体の状況

○ 診療領域に医学科基礎系及び看護学科の教員が数名貢献しているが、診療領域は臨床系の教員により支えられている。そのなかでも、評価点は助教が最も高く、次いで准教授・講師，教授の順になっており，診療と病院運営の両方の活動に准教授・講師，助教が大きく貢献していることが示されている。

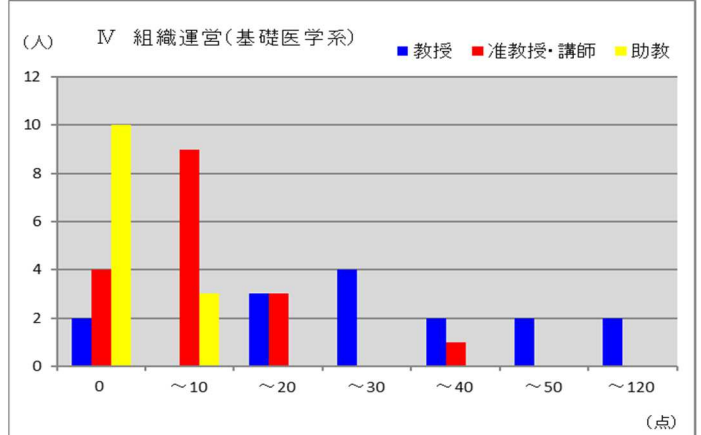
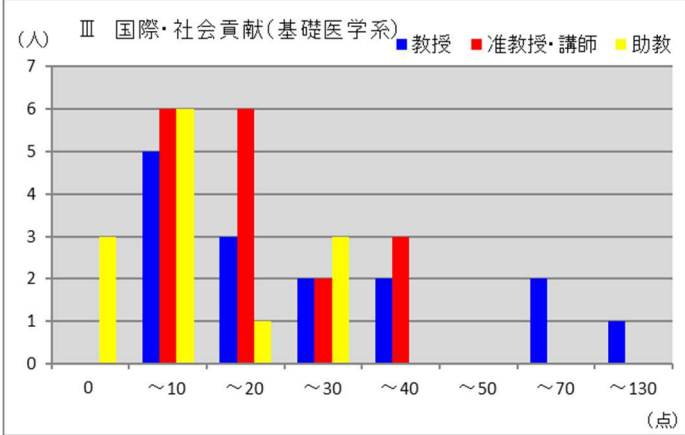
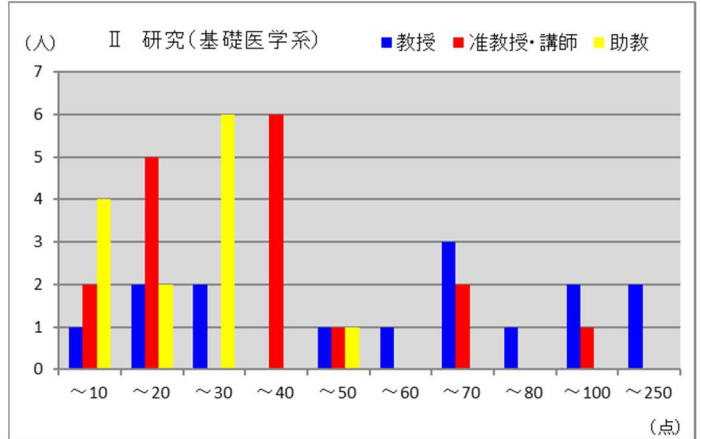
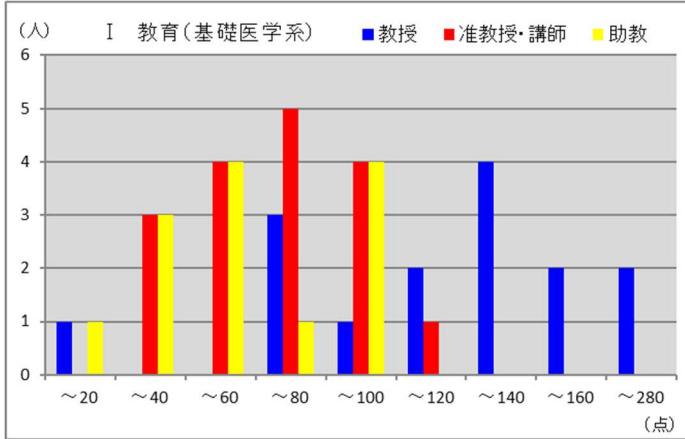
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析

(1) 各評価領域における職域・職種別の評価点数分布

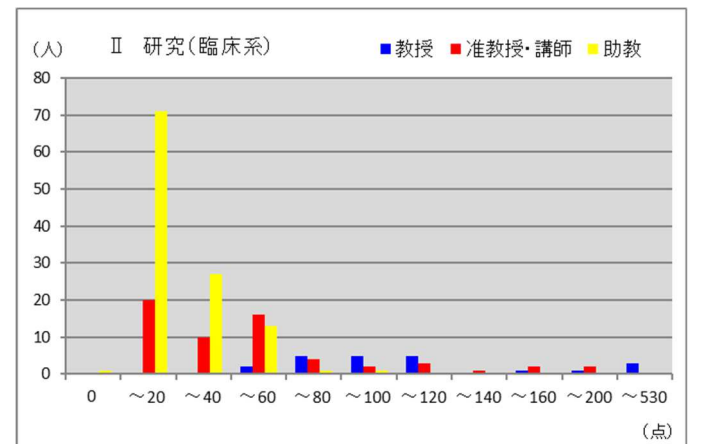
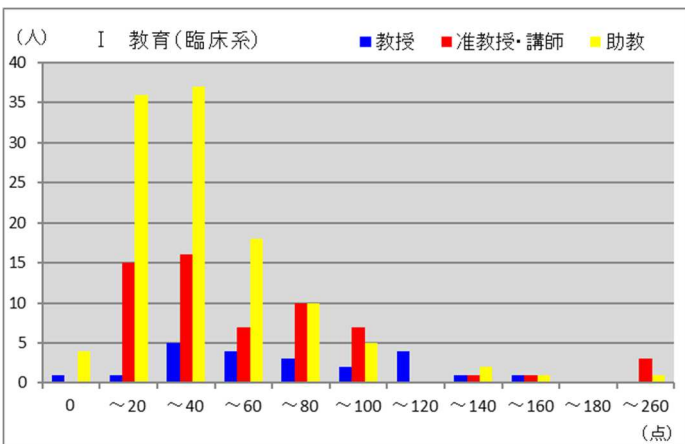
各評価領域の評価点数を横軸に、評価点に該当する教員の数（人数）を縦軸にとったグラフで、評価点の分布を職域・職種別（教授は青、准教授・講師は赤、助教・助手は黄色）に示す。

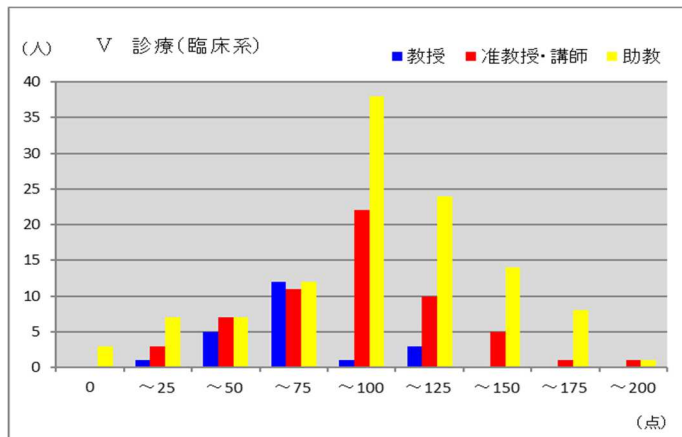
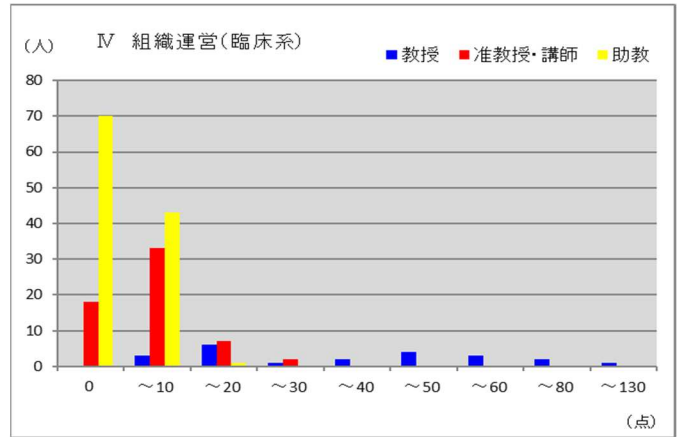
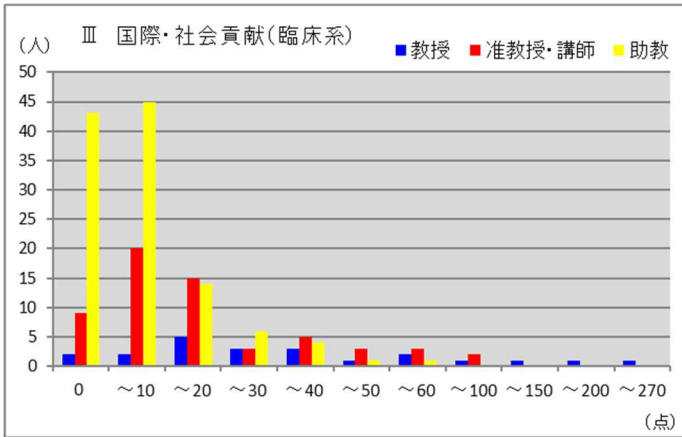
これで見ると、数人の教員が飛びぬけて評価点が高く、これらが平均点を引き上げている。

医学科基礎系

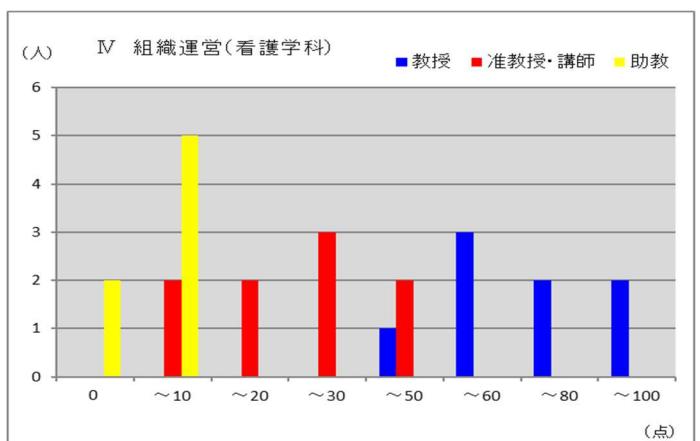
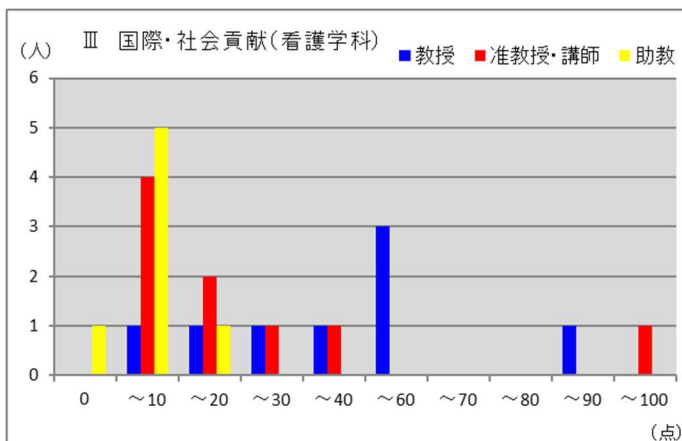
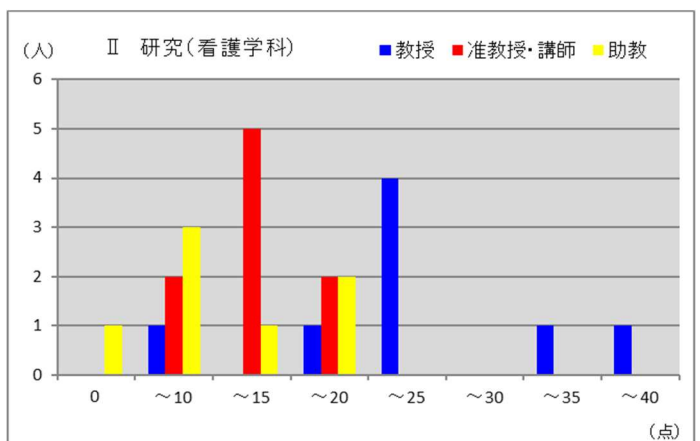
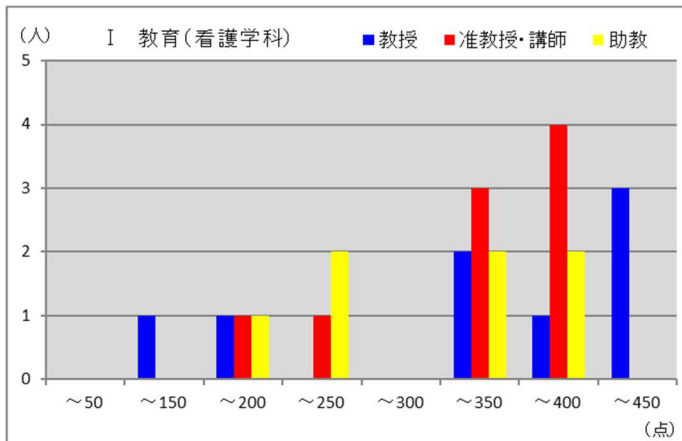


医学科臨床系





看護学科

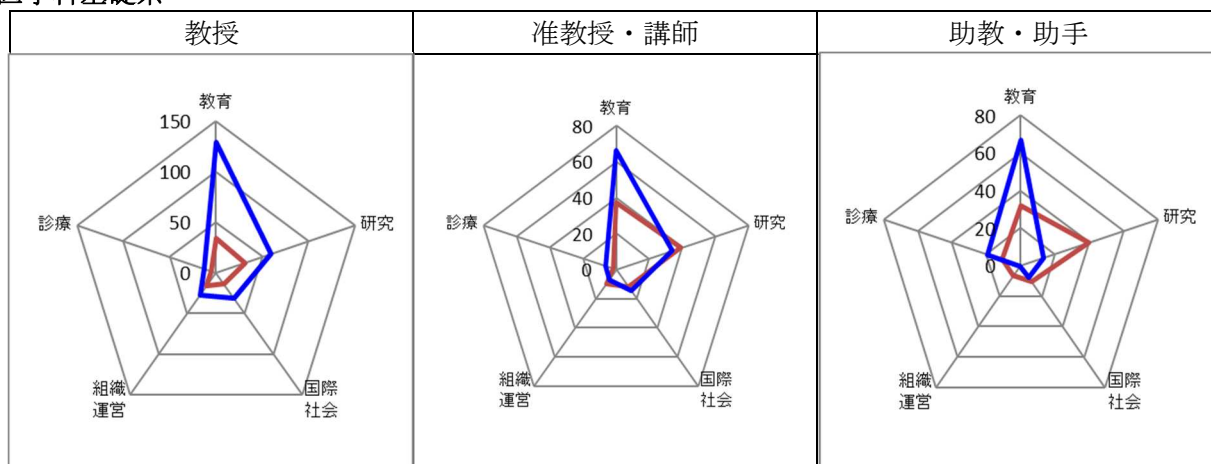


(2) 目標とする活動領域の重み配分と評価点との関係

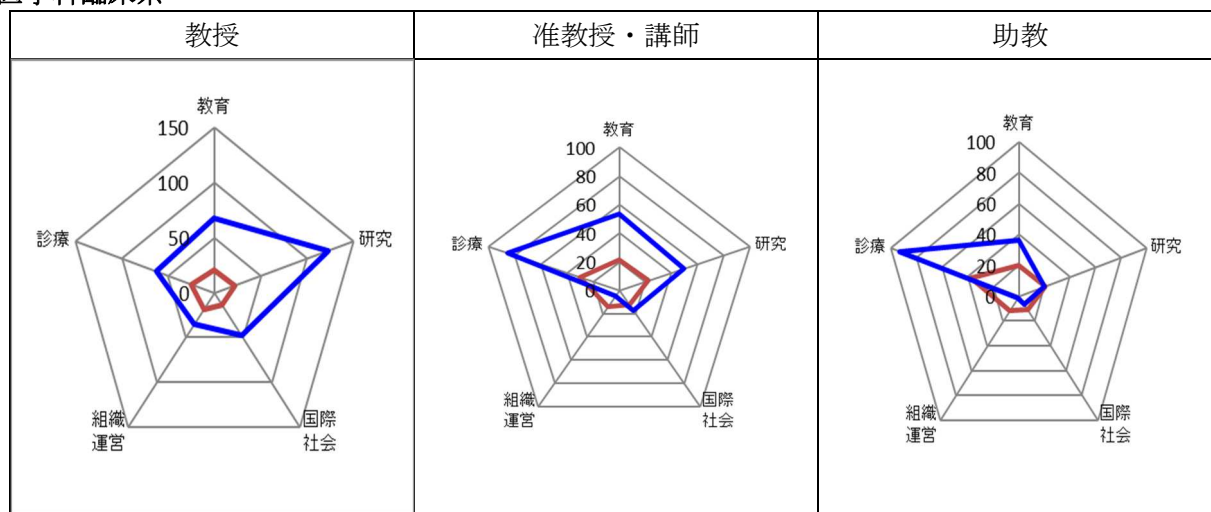
各評価領域の評価平均点（青色）と、予め申告した各領域の重み配分の平均値（赤色、100%を100点に換算）を、職域・職種別にレーダーグラフで示す。この場合、両者の点数スケールが異なるので、値は比較にならないが、グラフの形状により活動バランスを比較できる。

これで見ると、医学科基礎系及び臨床系では、概ね重み配分と評価点のバランスが取れているが、看護学科では教育と研究の評価点バランスがとれていないといえる。

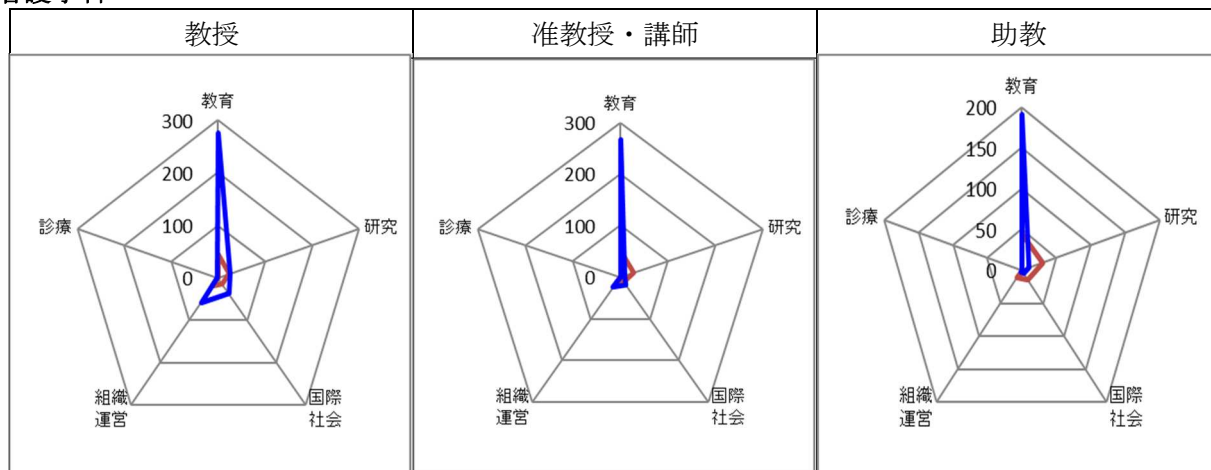
医学科基礎系



医学科臨床系

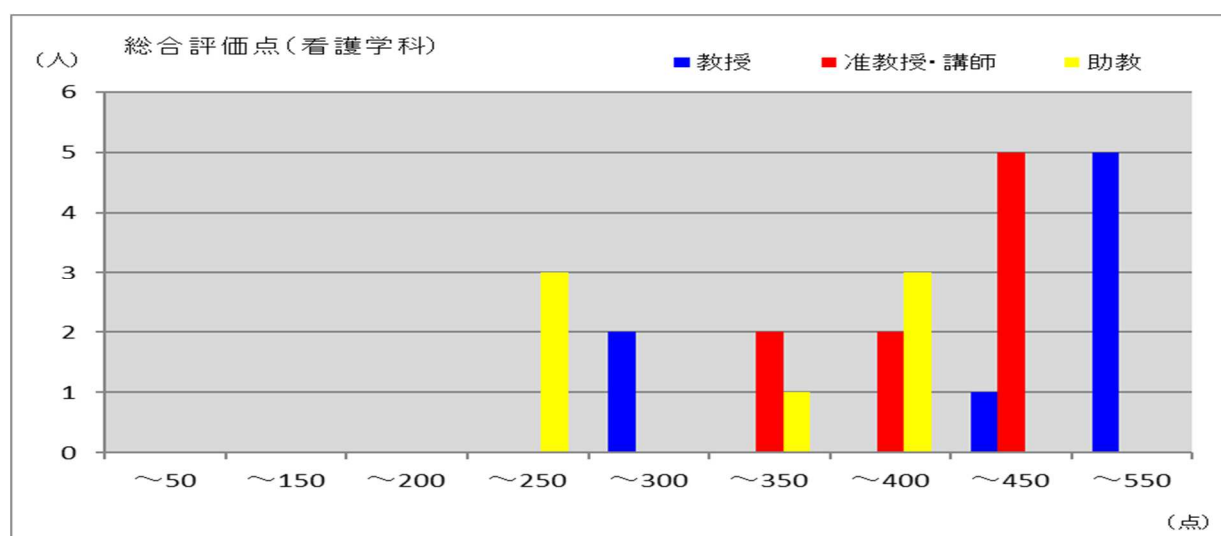
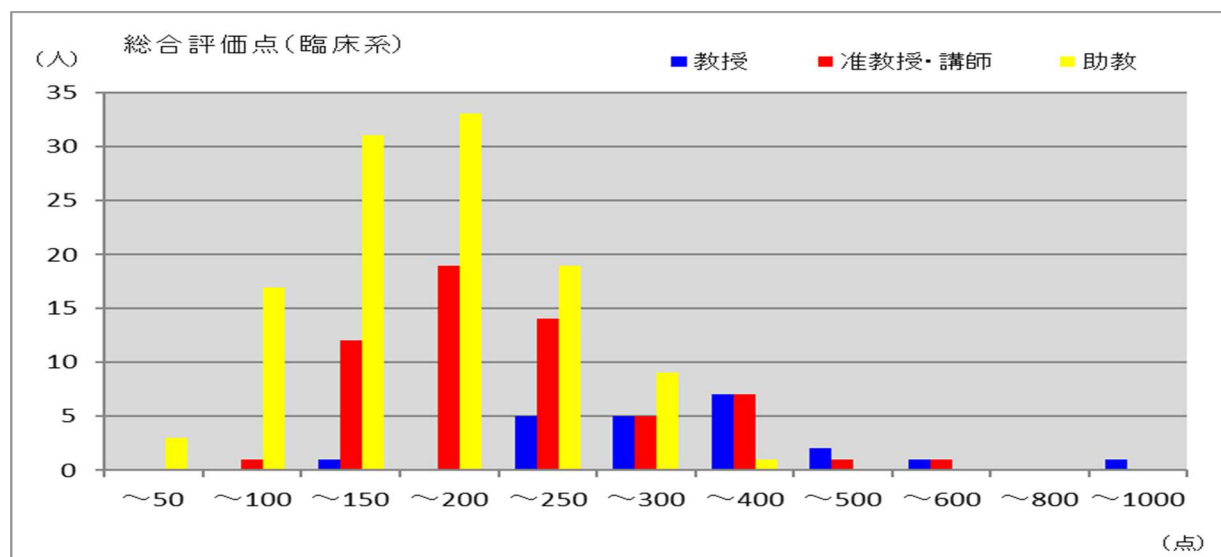
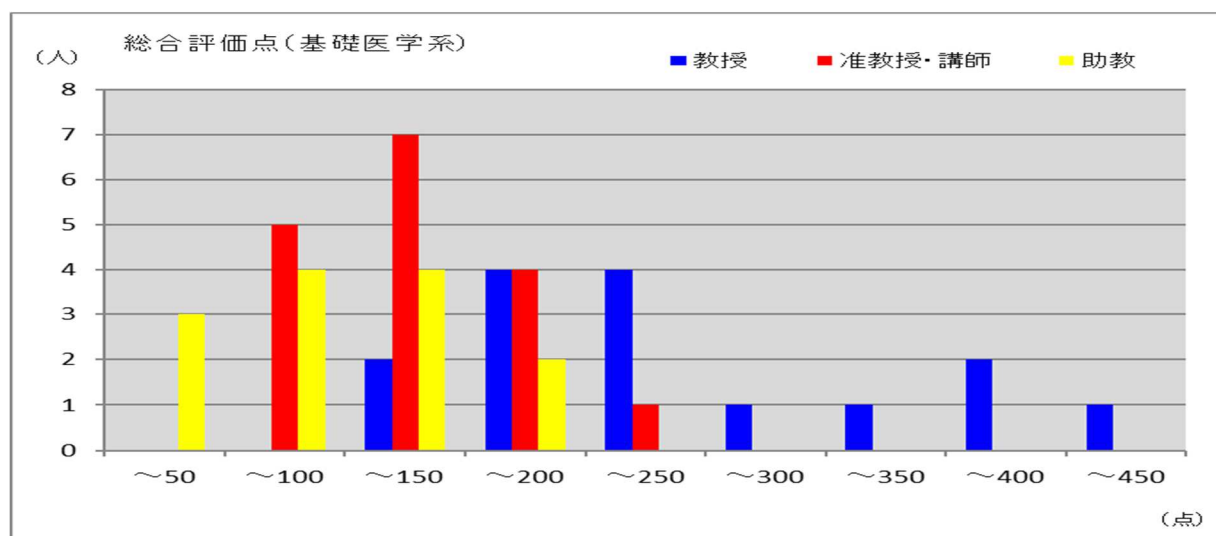


看護学科



(3) 職域・職種別の総合評価点数分布

各評価領域の合計評価点数を横軸に、評価点に該当する教員の数（人）を縦軸にとったグラフで、評価点の分布を職域・職種別（教授は青、准教授・講師は赤、助教・助手は黄色）に示す。



5. 各教員の2019年度活動目標に関する達成度自己評価の集計

前年度に各教員が設定した2019年度活動目標の達成状況について、各自が評価領域ごとに自己点検を行い自己評価した達成率(%)の職域・職種別平均値と、それに重み配分を掛け合わせたものを合計した結果を表7に示す。

達成度に関する自己評価は、評価の辛さ・甘さが個人によって異なるが、教育領域の達成度は高く、研究領域の達成度はやや低く自己評価している。総合的には概ね76.4%(30年度76.0%, 29年度73.5%, 28年度71.2%, 27年度70.5%, 26年度66.7%)の活動目標達成率と自己評価していることが示されている。

表7. 活動目標に関する達成度自己評価の平均値

職域・職種 区分		目標達成率 (%)					重み加算達成度 (目標達成率平均×重み配分率平均)					
		教育	研究	国際交 流・社会 貢献	組織運 営	診療	教育	研究	国際交 流・社会 貢献	組織運 営	診療	合計
基礎系 医学科	教授	91.0	83.0	89.0	93.3	25.3	31.9	25.5	11.9	16.1	1.0	86.2
	准教授・講師	90.2	82.3	78.4	84.4	16.9	33.9	32.1	9.3	8.2	0.3	83.9
	助教・助手	89.6	72.8	70.0	58.1	12.3	29.6	30.8	7.3	4.2	0.9	72.8
臨床系	教授	88.0	85.7	87.3	89.3	89.5	18.6	18.7	11.9	16.8	22.0	88.0
	准教授・講師	84.7	74.3	72.7	81.7	85.3	18.2	16.3	9.0	11.3	26.0	80.7
	助教	82.9	68.2	67.8	76.7	85.7	16.2	14.0	7.4	9.0	31.8	78.5
看護学科	教授	95.6	85.4	95.0	95.6	12.5	42.4	19.7	12.5	17.9	0.1	92.7
	准教授・講師	96.1	82.8	89.4	89.4	11.1	49.1	22.5	10.2	9.1	0.0	91.0
	助教	92.1	88.6	77.1	87.1	0.0	47.8	27.3	7.2	7.0	0.0	89.2

6. 教員の個人評価（2019年度活動実績）まとめ

2019年度活動実績の個人評価は、2020年2月に各教員の実績及び自己点検報告書の提出を求めて実施した。

今回の実施結果では、次のような問題点が認められた。

(1) 実施上の問題事例

- 1) 3月上旬依頼、4月上旬提出締切としていたが、期限を守らない教員がいた。
- 2) グループ長が報告書の内容を確認することになっているが、なされていないものがあった。

(2) 報告書記載内容の問題事例

- 1) 臨床実習の指導実績時間数に信憑性が疑わしい数値の記入。
- 2) 診療時間数に信憑性が疑わしい数値の記入。
- 3) その他、記載漏れ、記載内容の不備等。

○業務改善に向けて

2019年度実施の評価より教員の事務負担軽減のため、集計の際に不要な部分の記載をなくした。

また、集計作業の負担軽減のため、昨年度より業務の一部にRPA(Robotic Process Automation)を導入し、集計作業の負担軽減を図っている。今後もその他の作業に導入を目指し、更なる業務改善へつなげていきたい。